

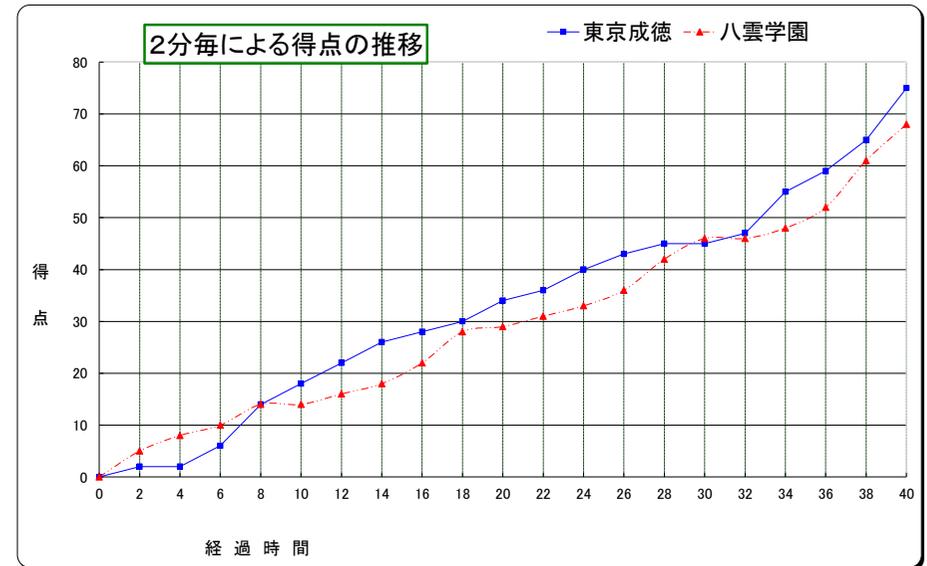
平成28年度第27回関東高等学校 バスケットボール新人大会

平成29年2月12日(日)
春日部ウイングハット
女子決勝 M3

チームA			チームB
東京成徳 (東京)	75	{ 18 1st 14 16 2nd 15 11 3rd 17 30 4th 22 }	68
			八雲学園 (東京)

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロック ショット	ターンオーバー	
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	木村 亜美	17	0	5	6	11	5	6	1	1	8	2	5	0	2	
5	小笠原彩香	18	0	0	9	19	0	0	4	0	5	3	2	0	4	
6	平山 瞳海	0														
7	大原 咲織	16	0	0	7	15	2	2	2	11	12	0	1	1	7	
8	佐藤 理映	0														
9	三好 青花	19	1	10	6	15	4	5	1	2	9	0	2	3	1	
10	林 美花	5	0	0	2	5	1	2	2	1	4	0	2	0	2	
11	佐藤 希	0														
12	池田 柚子	0														
13	田中 瑛恵	0														
14	中原 亜美	0														
15	樋口 真生	0														
16	金田 里桜	0														
17	遠藤 茜	0														
18		0														
コーチ	遠香 周平									1	1					
		75	1	15	30	65	12	15	10	16	39	5	12	4	16	
		確率	6.7%		46.2%		80.0%			計	55					

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロック ショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	佐藤 陽香	3	0	2	1	1	1	2	3	1	3	2	5	0	3
5	奥山 理々嘉	30	2	9	12	24	0	0	4	4	7	2	1	1	4
6	奥野 聖	8	0	3	4	4	0	0	3	2	4	1	2	2	3
7	小村 日夏理	21	1	4	8	21	2	4	2	3	6	2	2	0	1
8	太田 咲里	4	0	1	2	7	0	0	3	1	4	2	1	2	1
9	奥脇 彩柚子	2	0	1	1	6	0	0	0	0	7	0	1	0	0
10	太田 清香	0													
11	日塔 愛美	0													
12	宮下 菜侑	0													
13	尾川 菜	0													
14	佐々木 穂奈	0													
15	中島 瞳	0													
16	山中 小梅	0													
17	蒲 ひより	0													
18		0													
コーチ	高木 優子									2	3				
		68	3	20	28	63	3	6	15	13	34	9	12	5	12
		確率	15.0%		44.4%		50.0%			計	47				



戦評

新人関東大会女子決勝戦。東京都決戦となったこの試合、東京都予選では東京成徳が勝っているが、埼玉県春日部でこの決着がどうなるのか、注目のカードである。

第1P 両チーム共にハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。先制したのは八雲学園で長身#5の3p、#6のジャンプシュート、#5の外でリードする。東京成徳は司令塔#4のペネトレイトからオフェンスを組み立て、#7に合わせようとするがシュートは決まらない。残り6分8対2となったところで東京成徳のタイムアウト。その後から東京成徳は#4#5が果敢に1対1を仕掛け、ジャンプシュート、ドライブインで八雲学園のディフェンスを切り刻み、同点とする。八雲学園は#7が頑張り、ドライブインやゴール下での合わせ、リバウンドで連続得点するが、18-14東京成徳リードで終了。

第2P 東京成徳は#5のドライブインと#7のポストプレイなど、中外バランス良く得点する。八雲学園は#5に合わせて得点するが、得点が伸びずに5分が過ぎ、東京成徳#5のドライブが決まったところで8点差となる。八雲学園は#5を中心に1対1を仕掛け、#7が連続してジャンプシュートを決めるなどして徐々に点差を詰めていく。東京成徳は#4の個人技、#9のドライブインで繋いでいくが、残り2分で2点差となる。残り1分40秒で八雲学園がタイムアウトを取るが、東京成徳の#4から#7への速攻が決まり、34対29とわずかに点差を広げて東京成徳リードで前半終了。

第3P 2試合目の疲労からか、お互いにミスが重なり、得点が伸びない。東京成徳は#4のゲームメイクからシューターの#9が3pを試みるも連続して入らず、リズムに乗れない。#4が自らドライブやジャンプシュートで得点し、#7がリバウンドをねじ込みなんとか繋ぐ。八雲学園は#5がハイポストから3連続シュートを決め、リバウンドも頑張り、点差を縮める。残り1分30秒で東京成徳がタイムアウトを取り、両チームともリバウンド争いが激化する。終了間際、八雲学園#8がリバウンドシュートを決め、#7がエンドスローをインターセプトし、土壇場で逆転する。46対45八雲学園リードで終了。

第4P 八雲学園はここまでオフェンスの中心であった#5が4つ目のファウルとなり苦しい展開となる。八雲学園#6がドライブインを決めるも、東京成徳シューター#9の3pがここでやっとなり、#5が1対1やリバウンドで得点し、目まぐるしい点の取り合いで観客を沸かせる。八雲学園はタイムアウトを駆使し食らいつき、#5の3pで最後の追い上げを図るが、東京成徳も#9が速攻を決め、#7がリバウンドを収めて追い上げを退ける。このピリオドで30点取り、点の取り合いを制した東京成徳が勝利した。決勝戦にふさわしい、両チーム共に素晴らしいバスケットを展開した好ゲームであった。

記入者:伊澤 暁

Ref	吉田 憲生	1st U	山崎 人志	2nd U	小柳 幸子
-----	-------	-------	-------	-------	-------